

日 時：令和2年7月16日（木）18時30分～20時00分

場 所：高木会館

対象地区：高木

参加人数：23名

■要望、質疑応答

内 容
<p>○橋の耐久性について （市民から） 川にかかっている橋（尾上高校前駅から線路沿いに田舎館方向へ150メートルくらい行ったところ）の耐久性を調べてほしい。老朽化しており、車両で通るたびに不安を感じている。</p> <p>（市から） ・現場を確認し回答する。</p>
<p>○ごみの不法投棄について （市民から） さとちょう尾上店の前から黒石方面に向かう道路で、10メートル間隔でごみが置いてある、という状況が頻繁にみられる。これまでも市では広報などでごみを投棄してはいけないという周知をしていると思うが、このままの状態でもいいのか。ゴミの中には、家族2～3人分くらいの、コンビニで買ったと思われる弁当の容器やペットボトルなどが入っているものもあり、町会未加入者がごみの集積ボックスに出してはいけないと感じて、こういうことをしているのではないかと。ごみの不法投棄について、何か改善策はないだろうか。</p> <p>（市から） ・不法投棄についてはモラルの問題かと思うが、今すぐには即効性のある改善策は思い浮かばないので、持ち帰って検討したい。</p>
<p>○集会施設の駐車場について （市民から） 昨年、会館の駐車場の整備について、市がみなみの、尾上、高木の3町会を集めて協議した。市からは、舗装、側溝の整備、東屋の設置、外灯の設置という内容を聞いた。 買い上げの話が出ていた敷地に隣接している土地は、土地改良区の管轄と聞いたが、その後買い上げについては改良区と話をしたのだろうか。また、舗装すると建物側に水が流れるので間に側溝を入れてほしいと要望したが、どうなったのか。機会を作って設計内容を改めて説明してほしい。</p>

駐車場と道路に段差がないようにしてほしい。また、車を停めるのが難しい方もいるので、駐車場の会館のまわりの部分に白線を引いてほしい

敷地のまわりに官地があるが、管理する担当はどこになるのか。草刈りには1度だけ来てくれたが、半端にしかやってくれず、どこが担当なのかもわからない。

駐車場の管理について、前回話をした際には、高木で請け負うが官地の草対策はきちんとしてほしいと伝えた。

(市から)

- これまでに携わってきた会館などの修繕では、多目的に使用するため、駐車場のためだけに白線を引いた例はない。町会で白線を引くということであれば、前向きに協議することができると思われる。
- 今日うかがった内容については確認し、設計内容を説明する場を早々に設ける。

○看板の撤去について

(市民から)

尾上総合高等学校付近(尾上郵便局の通りを黒石方面に向かう道路沿い)にある、看板広告を取り付けられるようになっている鉄柱が錆びついていて危ないため撤去できないか。誰のものかわからない。

(市から)

- 現場を確認して回答する。

○ごみの集積ボックスの助成金について

(市民から)

以前設置してもらったボックスがねずみにかじられたりしたことにより使用が困難になり、昨年より順次新しいものに更新している。市からごみの集積ボックス1個につき3万円の助成金を出してもらっているが、1個あたり12万円かかっている。また、海洋センター前のボックスはそれでも容量が不十分で、さらに大きいボックスが必要だと考えている。新調に約30万円がかかる予定のため、助成額を増やしてほしい。

(市から)

- 高木町会からは去年、今年とそれぞれ6万円分の申請がきており、多額の費用がかかっていることを把握している。しかし、市全体では町会にして55~56か所、集積ボックスにすると何百か所になるから、すぐに3万円から助成額を増やすことは難しい。財政面を検討する際の今後の課題としたい。

○災害への対応について

(市民から)

昨今、日本の南の方の地域で集中豪雨が続けているが、地震などの災害があった時に備えて必要な備品・飲料水を備える予定はあるか。また、災害があった場合にどのような対応をしたらよいか。

(市から)

- ・現在、平川と浅瀬石川が氾濫した場合のハザードマップを作成しているところであり、完成し次第お配りする。
- ・備蓄の対応としては、各小・中学校に毛布、マット、段ボールベッド、パーテーション、新型コロナウイルス感染症対応の消毒液、マスク、フェイスシールドなどを備える方向で進めている。また、三密を防ぐために、災害時の収容数を半分以下にすることも想定される。そういった場合には、高木会館も避難所として開設する可能性があるため、各町会に受付対応用の最低限のマスク・検温計・消毒液等の受付の際に使用するセットの配布も検討している。
- ・まずは、ご家庭で水や防災セットなどを備蓄することをお願いしたい。また、市が避難所を開設する際には職員が来て開設するが、対応する職員の数にも限りがあるので、町会にもご協力いただきたい。自主防災組織には緊急時の連絡用の無線機の配布も検討している。基本的には、市が避難指示を出す前は、市が各町会に連絡を取りながら動き、消防団が実働部隊として活躍することになるかと思う。各部署と連携し、対応に当たっていききたい。

○防災無線

(市民から)

高木地区は地形の高低差があるためか、防災無線が聞こえづらいところがある。防災無線の設置方法を考えてほしい。

(市から)

- ・全域に渡って聞こえるような設計で設置はしたが、現在は高気密の家が多いため、聞こえづらい部分もある。何か鳴っているのが分かるくらいのボリュームであれば、窓を開けて聞くなどの対応でご協力いただきたい。また、メールで防災無線の内容を配信するシステムがあるので登録してほしい。どうしても聞こえない場合は、スピーカーの向きを変えてみるなど、対処方法を考えるので、町会長を通して相談してほしい。

(市民から)

今朝のテレビで、水害があった際に川のすぐ近くに住んでいる人が、ラジオから「すぐに逃げてください」という市などで放送するアナウンスが流れ、すぐに逃げて助かったという話を放送していた。危険個所やスピーカーが聞こえない家には個別にそういうものを配布するなどの方法を検討してほしい。

(市から)

- 本日持ってきているチラシに、メール配信サービスの仕方と、放送内容を確認できるテレガイドの電話番号も掲載されている。聞こえないという対処方法の1つとして、ご活用いただきたい。

○平川市の子育て支援について

(市民から)

平川市の子育て支援は本当に人気がある。その影響か、現在平川市の土地は高騰していると感じているが、実際のところはどうなのか。移住者が増えた、という記事もよく見る。

(市から)

- 土地の価格はそんなに高騰してはいないと思うが、人気があるのはおそらく弘前よりも安いためではないか。子どもたちの人口の動きも、転出人口より転入人口のほうが多い。医療費の助成を充実させており、学校で子どもたちの補助をする先生の人数も、他の市町村よりも多く配置して、子育て支援に関しては力を入れている。平川市は子育てしやすい地域だということは周知しているが、まだまだ足りないと思うのでこれからも努力したい。